



霞台小だより

# ひばり

No. 644

令和2年10月30日発行

青梅市立霞台小学校

青梅市新町1-35-1

電話 0428-31-3090

校長 佐藤 広明

## 「青梅学」で青梅の魅力を学ぶ

校長 佐藤 広明

13日に行われた体育学習発表会には、たくさんの保護者の皆さんにおいていただき、限られた中でしたが、子供たちは全力を出してこれまでの学習成果を発表することができました。新型コロナウイルス感染拡大のため、体育学習発表会を始め、教育活動を様々な制限のもとで進めなくてはならない現状を憂います。

6年生の小学校生活で最も楽しみにしていた6月の日光移動教室は中止となり、10月の御岳山移動教室に変更になりました。目的地が日光から市内の御岳山になったことを子供たちは残念がるかと思いましたが、日光の学習を、青梅を学ぶ「青梅学」に変え準備を進めると、意欲的に青梅のよさを学び、地元への興味関心も高まってきました。3日間の御岳山移動教室はとても有意義に過ごすことができました。

「灯台下暗し」この御岳山への移動教室は、私たちも子供たちも、地元青梅のよさの再発見につながりました。藍染工房での体験、ハンカチが見事に藍色に染まり、自分だけの模様が現われた時の子供たちの表情は、とても素晴らしかったです。御岳の宿坊で宿坊の歴史を聴いている時の真剣な表情、長い歴史を目の前で実感しました。日の出山登山や大多摩ウオーキング・トレイルでは、青梅や奥多摩の自然美を堪能できました。新しくなった吉川英治記念館では、青梅に暮らした著名人の偉大さを実感しました。

現在、5年生も「青梅を世界にPR」を合言葉に株式会社を設立し、青梅の魅力を詰ったデザインTシャツを開発中です。「青梅学」で青梅の魅力をしっかりと学び、11月6日の商品評価会で、デザインのよさをプレゼンテーションします。この学びを活かし、将来の青梅を担う人材になってほしいと思います。5年生のこれからの活躍をご期待ください。

郷土を学ぶ「青梅学」は、5・6年生中心に実施していますが、この学びは正に自分の目の前の学び、自分の生活につながる学びで、これから活きる学びです。教科書の学習と同じく、しっかりと進めていきたいと思えます。また、これらの取組に関し、本年度東京都都市づくり公社より、「青梅学」～青梅や多摩地区の魅力やよさを学び、郷土愛を育む～として、学習支援の決定をいただきました。青梅や多摩に関する書籍を多数購入し、図書室にコーナーを作って活用できるようにします。また、5年生には、今後、藍染めの染物体験、成木での林業体験の学習支援を実施する予定です。学習援助を活かし有効に「青梅学」の学習を進めていきます。

コロナ禍郷土愛育む機会  
小学校長 佐藤 広明 (東京都青梅市)  
コロナ禍で教育活動に様々な制限が生じている。子どもたちが楽しみにしていた日光への移動教室や国会などを巡る社会科見学は実施できなくなった。どれも大切な行事で、教育的な面から見ても大きなマイナスである。  
遠出もできない状態が続いているが、そうした逆境だからこそ、自分が住んでいる地域の良さを再発見するチャンスと捉えたい。今年度は、地元の林業家の協力を得て間伐を体験したり、青梅市の歴史を学んだりする。郷土愛を育み、地域の人材育成につなげたい。

郷土愛を育む私の想い、読売新聞  
(9月22日)に掲載されました。